

狸弟写真俳句集

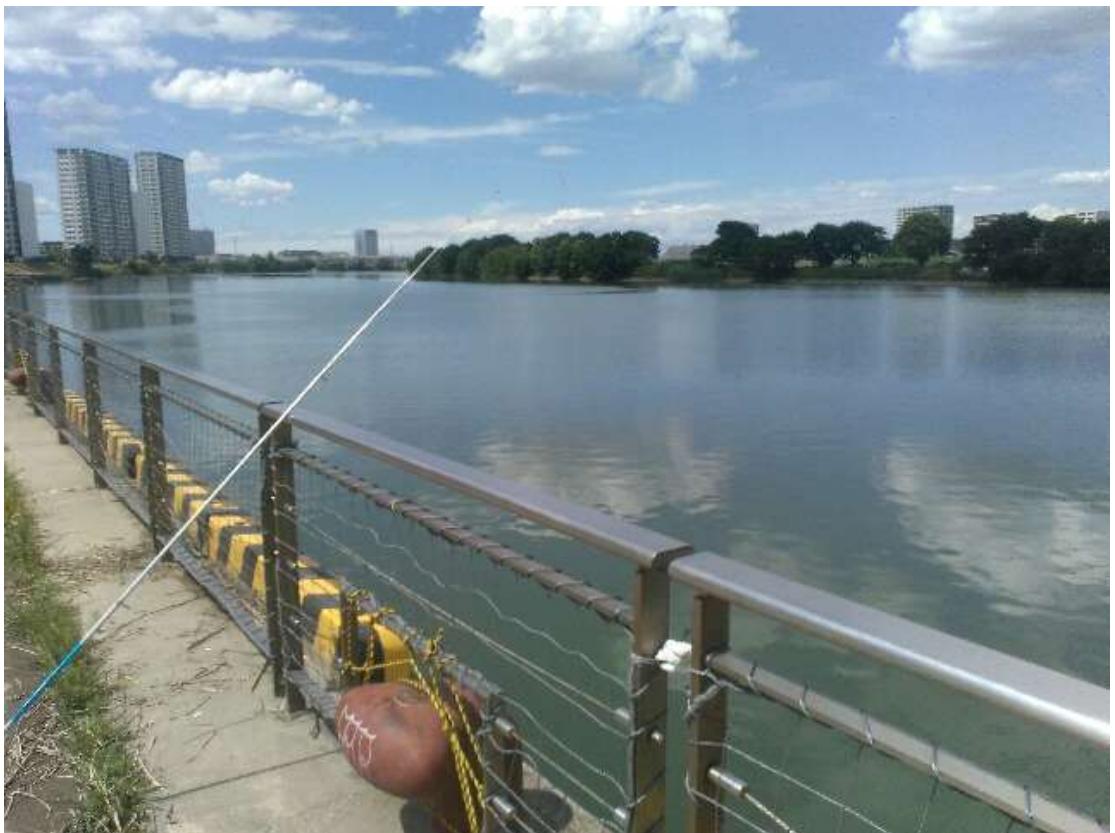




紫陽花や命日の雨ふりやまづ

2023年6月2日

p. 2



梅雨晴れや多摩川の沙魚
一尾かな

2023年6月16日

p. 3



水無月や大師の庭の広さかな

2023年6月17日

p. 4



梅雨空や肉焼く薪の炎かな

2023年6月21日

p. 5



夏風が鼻を抜けるや辛み蕎麦

2023年6月26日

p. 6



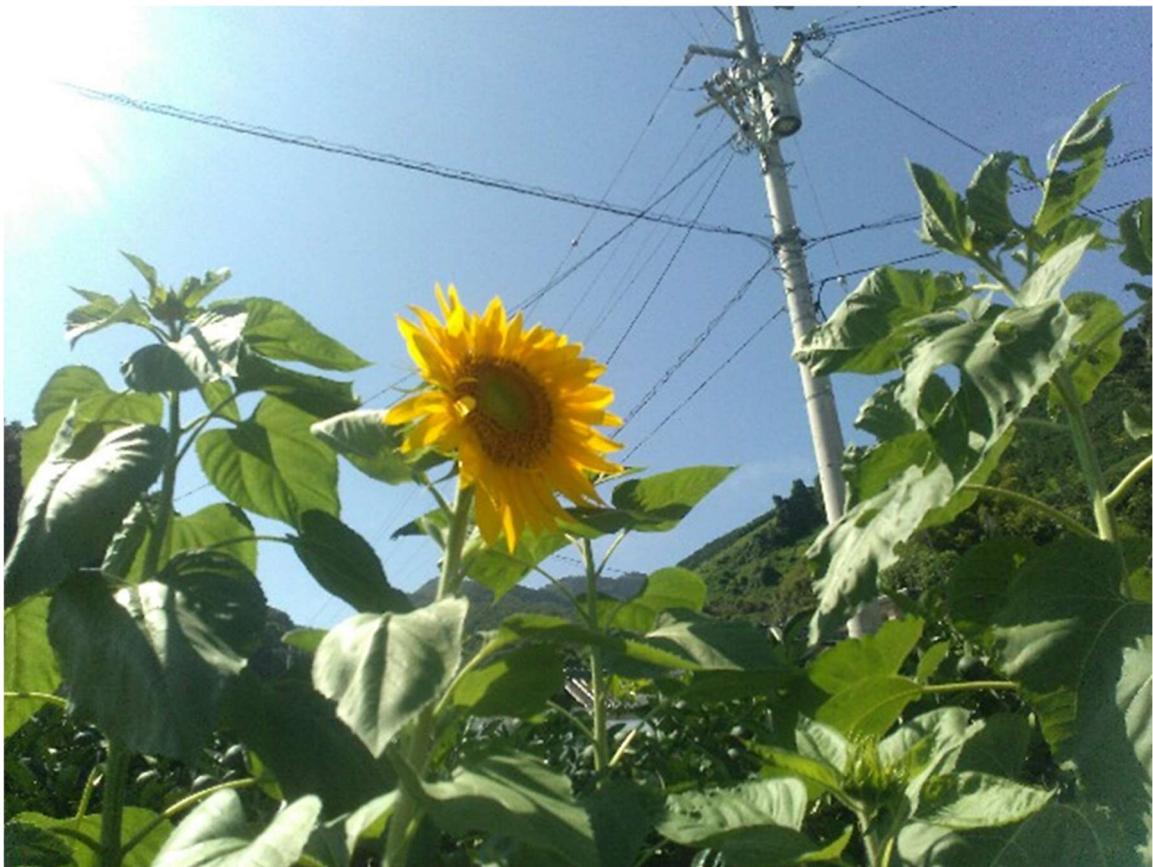
夏雲や白杵の里の磨崖仏



送
り
梅
雨
大
の
字
の
猫
芸
は
な
し

2023年7月9日

p. 8



向日葵や爪痕残し梅雨去りぬ

2023年7月11日

p. 9

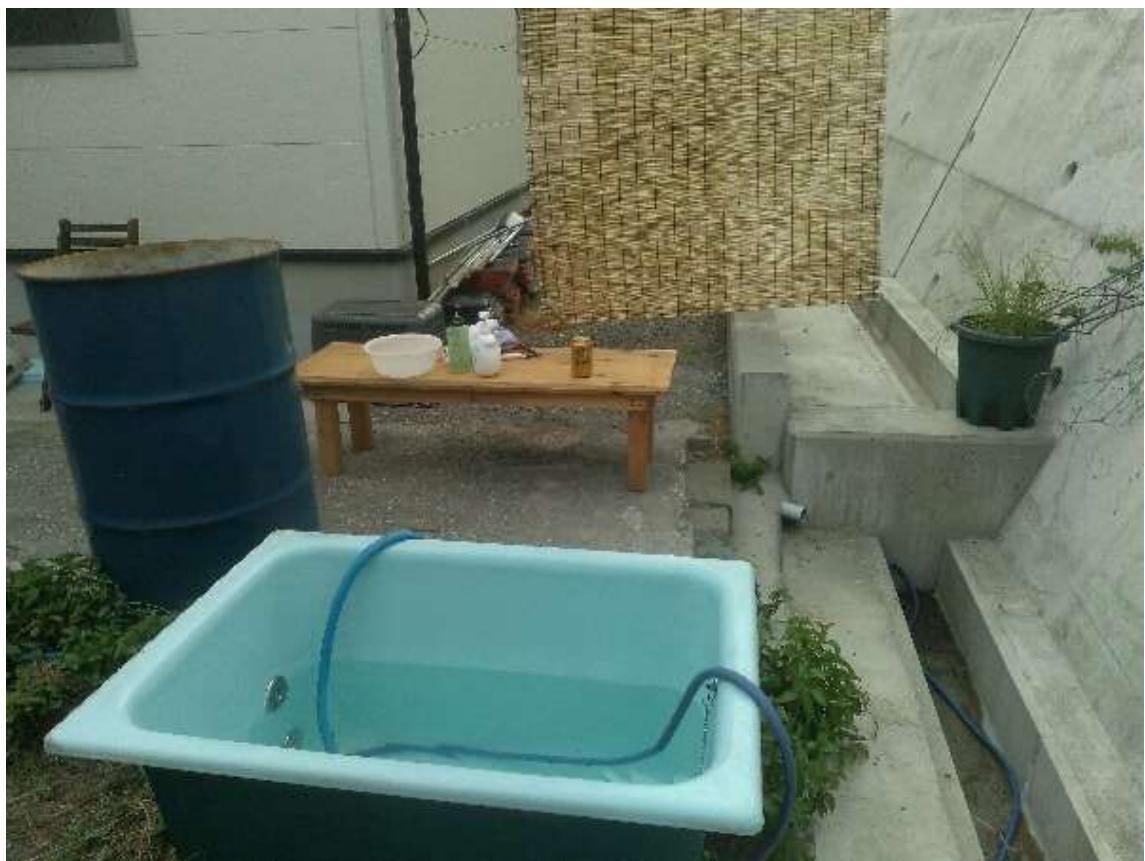


宇和島の花火
水面に映りけり



夏の夜の月下美人に薰り有り

2023年7月24日



初盆の灯入れ済みけり露天風呂

2023年7月26日

p. 12



夏の日のパスタ伊丹十三の味

2023年8月5日

p. 13



故郷の海辺の花火見上げけり

2023年8月12日

p. 14



迎え火や山から風の下り来る

2023年8月13日

p. 15



雷鳴の先より驟雨迫り来る



風涼し月下美人咲く十三夜

2023年8月29日

p. 17



青蜜柑千切り
手のひらに重し



秋の夜猫のロマンス
注ぐワイン



空蝉や昔々の物語り



白木槿芙蓉を姉と
慕ひけり



蝉時雨読経の終わり

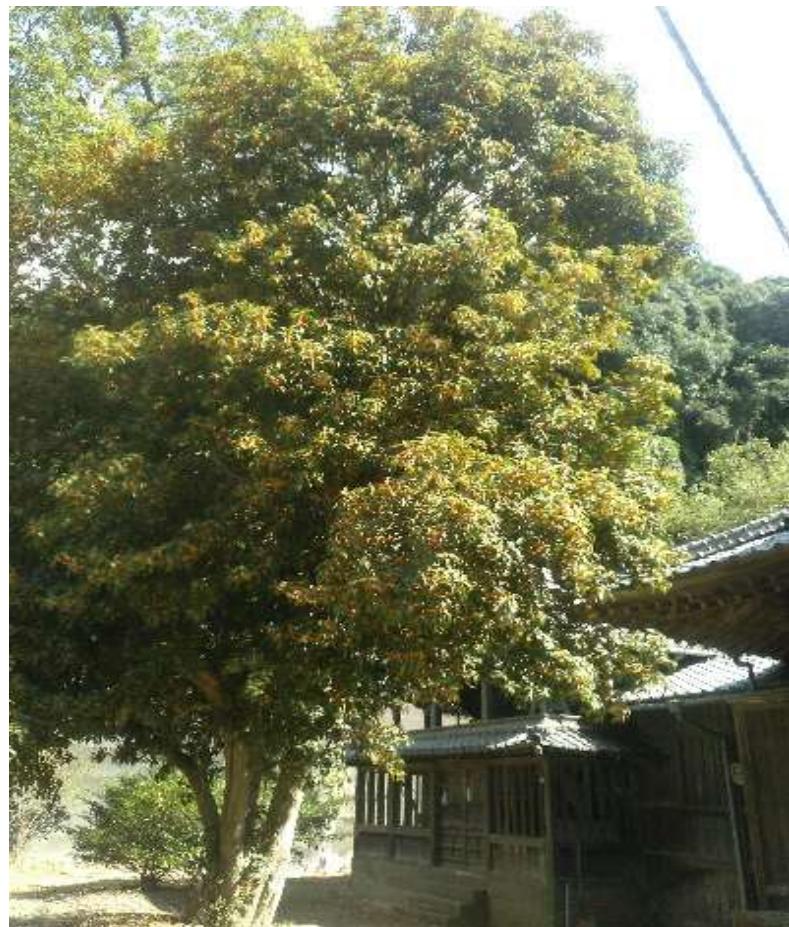
「喝」響く



彼岸花私
一人で生きてくわ



コスモスや三児の母に
なりし君



仰ぎ見る木犀の香や
満ち溢る



十二月注文の蜜柑送りきる

2023年12月9日

p. 26



柿の葉の落ちて残りし
実をもぎり



梅の花
幾たびの災ひ経しや



選果終へ腰伸ばしけり
白椿



虚子の忌や薪の炎で
レバー焼く



筍を掘りて竹林風涼し

2024年4月16日



竹の花百二十年の命かな

2024年5月3日



虹を見る
梅雨晴れや
スプリンクラーの



向日葵や一人背筋を
伸ばすなり

後書き

狸弟君が作句をはじめて一年余り。塵も積もればなんとかと言
うけれど、狸弟君の駄句も集まれば薪ストーブのたきつけぐら
いにはなりそうである。最近、作句の頻度がおちているようだ
が、すこし発破をかけておこう。

高月みかん農園 園主

2024年7月24日